

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
001	R5①	木村	前期計画の総括	関西の課題	前期広域計画の取組の総括	万博、WMGの評価	[取組方針の基本方針について]「万博やWMGを、関西経済の停滞感、閉塞感を打破し、活性化の起爆剤とする」という記述が重い。実際のところはどうか、中間段階の見込みであっても冷静に評価しつつ、次期計画に繋げるのが大切。
002	R6①	上村	前期計画の総括	広域連合の課題	広域連合が目指すべき関西の将来像	設立時からの変遷のフォロー、広域連合の役割	広域連合設立時の思いがどのように踏襲され、新しい社会情勢の中でどう変わってきたのか、確認フォローが必要。関西広域連合で何ができて何ができないのか考え直す必要がある。
003	R5①	加渡	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	マイルストーン	第6期計画は、デジタル田園都市国家構想総合戦略(2023~2027年)、2025年の万博、2027年のワールドマスターズゲームズ関西、2030年のSDGsのゴールを直近のマイルストーンとして意識するとともに、2050年のカーボンニュートラル達成、温暖化による災害へ備える防災、潜在化している社会課題などを確実に加えた計画にしなければならない。
004	R5①	木村	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	子育て世代支援、人生百年時代、高齢者活躍	関西の人口推計を踏まえた政策について、女性のM字カーブが低いのは、都市部は家事、育児、通勤コストが高いこと、夫の所得水準も高いので専業主婦を続けられるという2つの理由。若い夫婦を取り込むためには家賃を安くするなど、対策はある程度提言されているため、どう書き込むか。人生百年時代なので、最低75歳まで生き生きと働ける社会を作ればいいのか。
005	R5①	新川	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	世界の中での関西、人と経済	世界の中での関西ということと、人と経済ということが今日の焦点になったかと思う。
006	R5①	新川	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	関西のポテンシャル、イノベーション、成果	観光や農業、デジタル化などの個別の議論も踏まえながら、関西広域連合として、関西のポテンシャルをどう改めて組み合わせ、イノベーションを引き出し、それを関西の成果に結びつけて、未来の関西を作っていくか。
007	R5②	加渡	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	カーボンニュートラル、ロードマップ	カーボンニュートラル達成のためには、「脱炭素に向けた関西広域ロードマップ」を示し、日本における先進地として、攻めの姿勢を示すことが必要である。
008	R5②	加渡	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	DX、GX、SX	DX、GXもちろん重要だが、これからはそれに加えて、SX(ソーシャルトランスフォーメーション)の視点も必要である。
009	R5②	坂上	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	ビジョンの絞り込み、アクションの重点化	次期広域計画では、ビジョンをもっとシンプルに絞り込んで、重要なアクションを表現し、総花的にならないようにした方がよい。今のものは担当者レベルの事務的な資料になっている印象を持つ。
010	R5②	西村	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	連合の役割	広域連合は、広域でしかできないことをしっかりやらないといけない。そういう意味では、やはり明確に関西のこのエリアを将来どんなところにしていきたいのかということを示すべき。
011	R5②	西村	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	未来社会のデザイン、堅固な社会づくり、新たな社会づくり	万博のテーマである「未来社会のデザイン」や、「個性豊かで活力に満ちた自主自立の関西」といったものを最終目標とするならば、広域では、安全安心な社会をつくるため、DXを含めた基盤整備に取り組む「堅固な社会づくり」と、産業振興やダイバーシティの実現といったこれから目指す「新たな社会づくり」という二つの柱を立てて、方向を融合させていくのがいいのではないかと。
012	R6①	木村	将来像	関西の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	少子高齢・人口減少の進展した社会	少子高齢・人口減少の進展については、配布された資料でも示されているが、肝心なのは、社会がどのように変わるのかを具体的に把握すること。
013	R6①	新川	将来像	関西の将来像	防災・減災事業の推進	防災	防災は広域連合設立以来、一番大きく活躍してきた分野の一つ。これまでの蓄積、技術をより発展をさせ、関西圏内だけではなく、日本全体あるいは世界にどのように貢献していけるか。
040	R5①	坂上	将来像	関西の将来像	文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進	インバウンド	関西のリーディング産業は、歴史、文化を資源にした観光を中心とした産業群ではないかと思う。現状、円安や物価高騰の解決手段を持っていないことから、インバウンドを含めた観光産業群は、関西の強みである。人口が減少しても豊かになるには、人が来るということが重要で、インバウンドが即効薬になっているのは無視できない。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
014	R5②	坂上	将来像	関西の将来像	文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進	インバウンド、国内観光	インバウンドの回復で、今は外国人が日本のホテル市場の価格を決定しており、日本の可処分所得が全く増えないことなども含めて、日本人の国内観光は急激に衰退し、海外市場が観光の主戦場になってくるのではないかと懸念されている。将来的には、インバウンドもそれほど可能性が高いとは言えない時代が到来するのではないかと懸念されている。
015	R5①	上村	将来像	関西の将来像	観光その他	西日本全体を見据えた新たな広域観光	広域観光について、渋滞緩和と周遊観光を目的に、万博会場と瀬戸内を海上交通で結ぶ計画がある。大阪湾グレイター・ベイエリア構想を瀬戸内まで繋ぎ、さらには四国・九州までに及んだ新しい広域観光コンテンツとして、関西が西日本全体を一つにまとめていく起爆剤にしていこうという動きもある。西日本全体を見据えた新たな広域観光のあり方を提案したい。
016	R5②	梅原	将来像	関西の将来像	広域インフラのあり方	北陸新幹線、リダダンシー、国土の双眼構造	広域連合は、北陸新幹線を東海道新幹線のリダダンシーとして取り上げるべき。関西広域連合の基本姿勢は、「国土の双眼構造の実現」を目指すこと。そのためには東京と大阪の両圏域が大きな人流・物流でつながっていないと行けない。南海トラフ大地震が起これば、東海道新幹線が大きな被害を受け、長期に渡って東京・大阪間で人の移動ができなくなる。一方で、北陸新幹線は今のところ敦賀から京都を通過して大阪につながることで実現しているが、このルートでは開通は簡単ではない。米原ルートも[要]検討だと思ふ。
017	R6①	新川	将来像	関西の将来像	広域インフラのあり方	インフラ、交通網	日本全体の交通網、また関西が将来にわたり持続可能となるような交通網の整備。その中で関西がどのようにイニシアチブを取っていくことができるか。
018	R6①	新川	将来像	関西の将来像	デジタル化の推進	DX、データ活用、基盤づくり、人材育成・活用	観光や人口、教育等の様々な分野において、データを分析・活用し関西のこれからのを考えていかなければならない。そのための基盤づくりや、それを支える人材の育成や活用が重要。
019	R6①	大浦	将来像	関西の将来像	産学官連携	次世代の子どもたちの教育	教育の問題はこれから先の社会づくりのために重要であり、次世代の子どもたちをいかに育てていくか、例えばどんな関西っ子を育てたいかといった理想であったり、アイデアだったり広域計画の中で触れられると良い
020	R5①	西村	将来像	広域連合の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	環境・防災・医療の底上げ	広域連合としては、経済産業振興と人材育成・確保をリンクさせながら、一番の得意分野である環境・防災・医療の広域事務という3つの柱を底上げしていくことが必要。
021	R5①	新川	将来像	広域連合の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	学びの機会、協力連携	学びの機会を作っていく機能、あるいは協力をお願いする機能、そうしたところでの関西広域連合の組織体制や運営のあり方ということまでご意見をいただいた。
022	R5②	加藤	将来像	広域連合の将来像	広域連合が目指すべき関西の将来像	実験自治体、府県間を跨ぐプロジェクト、フラッグシッププロジェクト	第6期広域計画は、各府県の計画に屋上屋を重ねるようなものではなく、これこそ広域連合の計画だということを見せる必要がある。広域連合を「実験自治体」として位置づけ、計画を現実に移すステップとして、府県間を跨ぐプロジェクト、フラッグシッププロジェクトをつくってはどうか。
023	R6①	新川	将来像	関西の課題	広域連合が目指すべき関西の将来像	人口問題、教育、人材育成、貧困	今後人口構造が大きく変化してきている中で、教育の質の確保や次の人材への投資、貧困などの問題に、今後の関西圏がどのように対処していくべきか。
024	R6①	新川	将来像	関西の課題	多様な観光客への対応	観光、インバウンド、住民生活	特定地域への集中だけではなく、関西圏全体としてこのインバウンドをどうにかしていくか。防災や地域住民の生活といった課題を解決しながら、これからの関西が発展し、社会文化的にも関西がいかされていく重要な分野をどのように伸ばしていくか。
025	R5①	加藤	将来像	関西の課題	高付加価値化による中堅・中小企業等の成長支援	社会経済システム劣化、国際競争力低下	世界の劇的な状況変化の中で、日本の社会経済システムが劣化。日本の競争力の転落。関西は日本全体よりも危機感を持たなければならない状況。
026	R5①	梅原	将来像	関西の課題	産業その他	労働生産性・実質所得・学力の低下	先進国の中で日本だけが労働生産性や実質所得、学力が低下。日本の問題は関西の問題として、関西自身で考え、連合として国に対して発信しないといけない。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
027	R5②	加渡	将来像	計画全般	広域連合が目指すべき関西の将来像	ウェディングケーキモデル	「主要なテーマ」をSDGsの17のゴールのウェディングケーキモデルのように複層型に整理してはどうか。第1層は、地域社会を構築するための取組ということで、いわゆる基盤整備。第2層は、地域住民の意識の醸成に関するもの、第3層では、具体的な施策展開の方向性を示して、一番上に「世界の中の関西」というような、順位づけではなく複層型で全体像を可視化すると住民理解が得られやすくなる。
028	R6①	浦田	将来像	DX	広域連合が目指すべき関西の将来像	デジタルの活用	「デジタルの推進」という表現が使われているが、より活用を強調していくべき。中部圏広域地方計画では、「誰一人取り残さないためのデジタルの徹底活用」と表現。
029	R5②	西村	将来像	DX	デジタル化の推進	DXのメリット	DXの具体的なメリットが府県市民には分かりにくい。DXを推進することによってどんなふうに豊かになっていくのか具体的に描くことができればよいと思う。
030	R6①	渥美	将来像	東京一極集中是正	関西の特徴を活かした地方分権改革のあり方等の検討	「VS中央官庁」「VS東京」	地域のブランド力として、「VS中央官庁」「VS東京」といったアンチテーゼとしての関西を力強く打ち出してほしい。関西広域連合は、先進事例等を圏内市町村に情報提供することで貢献できるのではないかと。
031	R5①	西村	将来像	貧困	広域連合が目指すべき関西の将来像	人と経済、貧困問題	広域連合の中で取り上げるべきは、人の暮らしや、その生活をいかに守るか、ということが大きな柱になってもいいのではないかと。貧困問題など、人と経済はセットで考えないといけない。
032	R6①	渥美	将来像	貧困	広域連合が目指すべき関西の将来像	貧困、格差等のネガティブなデータの研究比較	貧困や格差等の潜在化する社会課題については、ポジティブなデータだけでなく、ネガティブなデータを研究比較し、必要な施策を打つ姿勢が重要。
033	R6①	木村	将来像	格差(教育, 医療)	広域連合が目指すべき関西の将来像	関西の中での地域間格差是正	「EU構造基金」を参考に、地方大学の専門人材育成への支援など、関西の中での地域間格差を是正する取組を検討すべき。
034	R6①	木村	将来像	格差(教育, 医療)	関西を支える人材の確保・育成	大学全入時代	大学の全入時代が来る。教育の質が変わってくる中、関西にどれぐらいの若者が残るのがかが問題。高等教育や労働問題は地域にとって大変な問題。関西の魅力、関西で学ぶことの魅力をもっと深掘りすべき。
035	R5①	加渡	将来像	ダイバーシティ&インクルージョン	広域連合が目指すべき関西の将来像	ダイバーシティ&インクルージョン、シビックプライド、Well-being	ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(受容性)。多様な人材を受け入れ、活かすこと。)について、関西広域計画というものを、関西に住んでいる人たちが自分のこととして考えられるようにすること、さらにはシビックプライドを持てるような計画にすること。計画達成度を測るには、関西に住む一人一人のWellbeingがいかに向上するか、という視点が大切で、従来のGDPなどのマスの大きさ至上主義から脱却する必要がある。
036	R6①	渥美	将来像	ダイバーシティ&インクルージョン	広域連合が目指すべき関西の将来像	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I、多様性・公正性・包含性)	「ダイバーシティ&インクルージョン」に「エクイティ」を加えた「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I、多様性・公正性・包含性)」が主流。中央官庁をはじめ行政のDE&Iが進んでいない中、関西の府県庁や市町村から率先し横展開していったらどうか。
037	R5①	木村	将来像	世界の中の関西	広域連合が目指すべき関西の将来像	世界の中の関西、地域コミュニティ再編	閉じた人口推計で考えるのではなく、世界の中の関西の位置づけや、人口減少の中で地域コミュニティをどう再編していくのかという、両にらみの計画が大事
038	R5①	西村	将来像	世界の中の関西	個性豊かな地域の魅力を活かした地域経済の活性化	経済産業の盛り上げ	世界の都市人口のランキングでは、東京含む京浜エリアが断トツで、世界的に認識されている。一方、京阪神は19位くらい。関西の中で見るだけでなく、世界の中での位置づけという面を考えていくのがよいのではないかと。人口は19位だが、経済産業面では名古屋単独と同程度までずると落ちてきている関西の状態をどう盛り上げていくのか、世界の中でもこれだけ大きな人口をどう活かしていくか。
039	R5①	西村	将来像	世界の中の関西	関西を支える人材の確保・育成	経済産業における存在感の薄さ、	人の問題が焦点となる理由は、関西の人口に比して経済産業における存在感の薄さにある。日本は世界競争力ランキングで35位だが、インフラ等は上位だが、ビジネス効率性が毎年落ちている。関西も同様に勢いがいない状況で、経済面での存在感を出せるように、現状をしっかりと見ていかなければならない。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
042	R5②	木村	取組方針	関西の課題	大規模広域災害を想定した広域対応の推進	災害対策	災害対策について。令和6年能登半島地震は、南海トラフ大地震が起きた場合、何がおきるのか想起させた。今までの防災対策、災害復旧・救助救援策・備蓄・避難所対策が不十分であるということを開きかけた。この経験に基づいて、各種の対策や災害が起きた時の連携のあり方を練り直す必要がある。
043	R6①	河田	取組方針	関西の課題	防災・減災事業の推進	インバウンド、神社仏閣、文化財に対する防災対策	インバウンドに対し、土地にどんな危険があるか知らせる方法を考える必要がある。また、神社仏閣、文化財も致命的な被害を受けるため、それに対する対策をしておく必要がある。
044	R5②	衣笠	取組方針	関西の課題	文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進	インバウンド、富裕層、周遊	インバウンドは京都、東京、大阪の大都市が中心になっているので、海外の富裕層がもっと地域に来てくれるような取組をすればよい。第6期広域計画にはそういう記載も加えるべき。
045	R6①	大浦	取組方針	関西の課題	文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムの住民への影響をの課題を解決することが将来の観光の健全な運営、持続的な発展に向け重要である。
046	R6①	大浦	取組方針	関西の課題	関西の観光・文化分野におけるDXの促進	EBPM、SDGs	データを取り分析しながらエビデンスのある対策を立てていくことを、本気で関西広域連合で進めていかないと持続可能な地域づくりや観光地づくりに結びつかない。SDGsの目標に対して、データを取って評価検証を進めることが重要。
047	R6①	坂上	取組方針	関西の課題	多様な観光客への対応	インバウンドの活用、文化を地域循環に変えていくための知恵	関西のインバウンド観光は京都、大阪を中心に偏在し地方部への分散が大きな課題。インバウンドをいかに活用するか、今の観光の課題だと思う。関西は文化首都のコンセプトを掲げながらも十分に活用されていないことから、文化を地域循環に変えていくための知恵を考えてはどうか。
048	R6①	大浦	取組方針	関西の課題	多様な観光客への対応	インバウンドと防災	外国人旅行者がいるという前提で、例えば防災に関して言えば、インフラの安全対策や、具体的な地域の避難計画を整えること、広域的な視野に立った支援や情報共有が喫緊の課題
049	R5①	衣笠	取組方針	関西の課題	関西文化の振興と国内外への魅力発信	日本遺産の盛り上げ	西国33ヶ所巡礼が日本遺産になって5年になるが、日本遺産登録を剥奪されることもあると聞く。広域連合としてもサミットのようなものを開催してもらいたい。各地域で頑張っている人を繋ぎ、競い合うような、お寺・地域住民・企業が協力した活動が芽生えていけばよいと思う。
050	R5①	加藤	取組方針	関西の課題	関西の優位性を活かしたイノベーション創出環境・機能強化	大学のイノベーションの創出	関西の大学には、大学の持つ情報、知識、アイデアを社会や地域に還元することで、イノベーションの創出に繋げてもらいたい。
051	R5①	加藤	取組方針	関西の課題	産業その他	規制緩和、規制誘導	既存の資源を上手く使いこなすという点で、規制緩和は重要で、規制が厳しい領域では関西広域独自のルールや制度があってもいいと思う。逆に、規制を誘導する手法もある。都市の中に競争と連携の状態を作り、モザイクのように輝かせるということを、広域連合の中に作っていくのもよいのではないかと。
052	R5①	衣笠	取組方針	関西の課題	地産地消運動の推進による域内消費拡大	地産地消	農業について、「地産地消」という言葉を「域内産・域内消費」にすれば、府県を繋いで消費拡大に繋がるのではないかと。
053	R5①	衣笠	取組方針	関西の課題	食文化の海外発信による需要拡大	食文化	「食文化」は、前に「関西」の言葉を入れると、関西の味や食べ方を海外に発信する具体的なイメージが湧くのではないかと。
054	R5①	衣笠	取組方針	関西の課題	農林水産業を担う人材の育成・確保	農業人材不足	農業も人材不足のため、域内での人材交流の橋渡しをするのも広域連合が活躍できる場だと思う。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
055	R5①	衣笠	取組方針	関西の課題	農林水産その他	物流問題	・農林水産物の販路拡大に関連して、物流の2024年問題がある。先日JR西日本を訪問した際、今後コンテナが物流の中心になる可能性があるにも関わらず、冷凍・冷蔵品は運べないのが現状とのこと。広域連合が地域や企業、人を繋ぐことで物流問題が解決するような文言も入れてもらえれば。
056	R5②	木村	取組方針	関西の課題	広域インフラのあり方	交通網の整備	大災害による太平洋側交通網遮断リスク回避の観点から交通網の整備が必要。北陸新幹線の大阪への延伸、紀伊半島内陸部等も含めた高速道路網等の整備。
057	R5②	木村	取組方針	関西の課題	広域インフラのあり方	公共交通機関の整備、代替手段の確保	公共交通機関の整備と代替手段の確保。公共交通機関の不採算部門からの撤退が切実な問題となってきた。県域をまたいで運航するバスの撤退もある。代替手段の確保は、関西広域連合の域内で共通した喫緊の問題である。医療機関、スーパーへのアクセス絡めてこの問題に対して、ライドシェアなど取組姿勢を示すことが必要ではないか。
058	R6①	梅原	取組方針	関西の課題	広域インフラのあり方	北陸新幹線、関西と北陸との経済・文化交流	長年にわたって関西と北陸とのいろんな経済・文化交流が今はほとんど東京化しつつある。北陸新幹線については、北陸のいいところが皆東京に向けて関西に向かないことが起きている。
059	R6①	梅原	取組方針	関西の課題	広域インフラのあり方	北陸新幹線、リダンダンシー	北陸新幹線の大きな意義の一つは東海道新幹線のリダンダンシーである。南海トラフ地震が発生すると津波で東京と大阪の人流の7割を占める東海道新幹線は分断される。
041	R6①	木村	取組方針	関西の課題	広域インフラのあり方	北陸新幹線の大阪延伸	北陸新幹線の大阪延伸は、日本全体の安全保障にとって欠かすことができないものであり、北陸新幹線の延伸について早期着工、工期短縮、早期全線開通を、最も優先すべき事項として、以前にまして、広域計画に強調して書くべき。
061	R5②	衣笠	取組方針	広域連合の課題	国内外への農林水産物の販路拡大	農林水産物の販路拡大	〔農林水産物の販路拡大について、〕例えば、滋賀県の農家が小麦を作って、大手コンビニと連携して、滋賀県産の小麦でパンを作って販売したら第2弾、第3弾と続いてすごく盛況だった。そのような各府県の頑張っている取組を関西広域連合で広報したらよいのではないか。
062	R5②	木村	取組方針	広域連合の課題	様式・基準の統一の推進	規制緩和、特区	域内での思い切った規制緩和、特区の設定について。例えば、県ごとにライセンスをとらなければならないなどの壁があって、域内で自由な経済活動が阻害されている場合、広域連合の中ではその壁を実験的になくす。
060	R5②	渥美	取組方針	広域連合の課題	広報・広聴活動の充実	情報発信基地	行政が持っている強みは、「情報」と「信用」。主要なテーマ「DXの推進」「SDGs2030年目標達成に向けた取組」「ダイバーシティ&インクルーシブな社会の実現」については、多くの企業がすでに素晴らしい取組をしており、各府県市にその情報があると思うので、関西広域連合にはその「情報発信基地」としての役割を期待したい。広域連合の信用でPRになるので企業に喜ばれるはず。
063	R5①	渥美	取組方針	広域連合の課題	業務改善の推進	働き方改革、ワークライフバランス	構成府県庁の働き方改革の現状をみると、全国平均と比べても大幅に増加している。欧米は「仕事に人をつける」が、日本と韓国は「人に仕事をつける」という規範が強い。「効率的な働き方で、長時間外労働をせずに成果を上げる」という新エース像が今後は主流になる。コロナ禍がひと段落した今こそ、「エースを守る」という観点から、働き方改革の取組みを再度本格化すべきである。広域連合の構成府県市には、欧米のように、行政機関がワークライフバランスを実践し、民間に波及させる、旗振り役の役割を期待したい。
064	R5①	上村	取組方針	DX	デジタル化の推進	マイナンバー、デジタル化推進	マイナンバーカード等、デジタル化の推進が構成府県市や基礎自治体で無理なく実施できるか検証し、しっかりした運用体制となるように取り上げていかなければならない。
065	R5①	梅原	取組方針	DX	デジタル化の推進	デジタル後進国、マイナカード	デジタル超後進国。マイナカードについては、従前の固定化したシステムを残した上でデジタル化しようとするから上手くいかないのであって、今の時代に合うようにデジタル化すべき。
066	R5②	木村	取組方針	DX	デジタル化の推進	オープンデータの整備	オープンデータの整備。オープンデータの整備は、新たな事業を展開するうえで事業者にも見通しを立てやすくし、研究者にも役立つ。関西で、どういったオープンデータが必要かは、議論を詰める必要がある。災害研究においても、電子データは十分には整備されていない。また、DX化の推進のためには、草の根の活動が重要な時期に入った。自治体職員や事業者等を対象に勉強会を頻繁に開いてはどうか。
067	R5②	木村	取組方針	DX	デジタル化の推進	AI活用、大学等連携	AIなどを使い、また高等専門学校や大学などと連携し、地方部にあつては農林水産事業者や中小企業者などの課題を解決するという方針をこれまで以上に強く意識する計画であってほしい。関西広域連合大賞など表彰してはどうか。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
068	R6①	浦田	取組方針	DX	デジタル化の推進	データ連携・活用、社会実装、産学官民連携	デジタル活用の基盤づくりにおいて、ハード整備だけでなく、分野を超えたデータ連携を促進し、基盤を活用したデジタル技術の社会実装を進めていくことが重要。様々な課題解決のためにデータ活用していくという目的意識を持ち、産学官民連携で、基盤づくりを目指すのがよい。
069	R6①	浦田	取組方針	DX	デジタル化の推進	デジタル人材の育成・確保	デジタルを活用して様々な地域課題を解決するためには、デジタル人材の育成・確保が重要。都市部人材が、地方に関わり対応していける仕組みを構築すべき。地方の若手育成もデジタル推進には有効。
070	R5②	河田	取組方針	分権型社会	「防災庁（仮称）」の設置に向けた提案等	防災庁（仮）設置	ここ10年ぐらい、国に対し、防災省（庁）の創設と関西での防災省（庁）の分所設置を要望している。また、憲法に緊急事態条項を明記するよう改正を目指す運動をしている。法的なバックグラウンドが駄目だったら、組織をつくっても機能しない。憲法を改正できれば、防災省（庁）も非常に効果が出てくると思う。
071	R5①	坂上	取組方針	万博レガシー	「2025年大阪・関西万博」等を活用した観光の推進	関西パビリオン	万博の関西パビリオンは非常に大きな成果であり、広域的に力を合わせることでできたのは、各府県市が観光に期待できると評価したからだと思う。
072	R5①	坂上	取組方針	万博レガシー	官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進	関西観光本部	関西観光本部は万博終了後に財源が尽きることになっており、解決策は明示されていない。万博のレガシーを継承する、新たな観光をテーマにした官民連携組織の再構築を検討すべき。
073	R6①	上村	取組方針	万博レガシー	万博/レガシーその他	万博のレガシー継承	関西万博やそれをレガシーとして継承させていくことなど、やれることを整理していく必要がある。
074	R5①	加藤	取組方針	雇用	関西を支える人材の確保・育成	労働市場の流動化、リスクリテラシー	日本の硬直化した労働市場において、政府がリスクリテラシーという言葉で、内部労働市場と外部労働市場の接点をいかにうまくマネージしていくか示したことは非常に大きな変化。リスクリテラシーにより働き方が根本的に変わることを前提に、関西では大学が既存のリソースをそういう方向へ向けていくというのを見せるのはどうか。
075	R5①	加渡	取組方針	雇用	関西を支える人材の確保・育成	キャリアのポータビリティ、生成系AI	キャリアのポータビリティについて、ChatGPTなどの生成系AIを引き金に、働き方を変えざるを得ない状況に直面している。それぞれが何を学び、何を学び直して、そしてそれをポータビリティとして持ち、流動化を図っていけるようなシステムが必要。大学の役割も非常に大きい。
076	R6①	加渡	取組方針	雇用	関西を支える人材の確保・育成	生産年齢人口減少、若者、女性、外国人材	関西圏では全国に先駆けて生産年齢人口が減少。若い世代、女性、外国人材をキーワードとした労働力の確保。大学生が卒業後になぜ関西に定着しないのか、なぜ関西で働かないのかの深掘り。
077	R6①	渥美	取組方針	雇用	関西を支える人材の確保・育成	サーモン施策	これからの鍵を握るのは「サーモン施策」。若者特に女性が一旦関西圏外に転出して、結婚や子育てのタイミングで関西に戻ってこれるような施策により、社会増、自然増に取り組んではどうか。
078	R5②	木村	取組方針	雇用	産業その他	働きやすい関西、パワーハラスメントの撲滅	働きやすい関西。パワーハラスメントの撲滅を提案したい。公務の場合は、育児休暇の取得など、これまで先進的な政策の実施で音頭をとってきたが、パワハラ防止・被害者の救済・再発防止においても、そうであってほしい。関西広域連合が率先して、パワハラをゆるさない職場環境をつくっていただきたい。宮城県のように、職員が上司を評価する制度をつくるなど。
079	R6①	加渡	取組方針	ダイバーシティ&インクルージョン	関西を支える人材の確保・育成	働き方、住み方、暮らし方の多様性や流動性	働き方、住み方、暮らし方の多様性や流動性を認めるという意味でセカンド住民票、サード住民票制度を関西の中でつくるなど働き方、生き方の新しいモデルをつくっていくことも一つの考え方。
080	R6①	加渡	取組方針	ジェンダー	女性活躍の推進	女性活躍は当たり前の関西	女性活躍と言わなくてもいい関西、女性活躍は当たり前の関西を目指していかなければならない。
081	R5①	坂上	広域計画の推進	関西の将来像	産学官連携	大学連携	大学の役割について、観光、ソーシャルビジネス、スモールビジネスなど、関西の活性化に繋がるような分野であれば、共同のフィールドワーク研究など連携が可能だと思う。
082	R5②	衣笠	広域計画の推進	広域連合の将来像	産学官連携	様々な外部組織との連携・協力	広域連合は主役でなくフォローする組織。将来像を実現するため、都道府県だけではなく、様々な外部組織と連携・協力していくということを、次期計画には記載すべき。

No	委員会	委員	大分類	中分類	小分類	件名	概要
083	R5①	木村	広域計画の推進	関西の課題	産学官連携	大学連携	雇用や高等教育の問題は避けて通れない。例えば特区を利用して大学教育のあり方も変えていくなど、高等教育機関が情報や技術を持っているのも事実なので、計画の中で重きを持たせることが重要ではないか。
084	R5①	山崎	広域計画の推進	計画全般	住民意見の反映	手間をかける、対話、人間性	[計画のあり方・基本的な枠組みについて] 地域住民の方々皆に聞けばよいことで、皆で学び合って、ワークショップを開いて、意見を聞いていけばいい。上位計画と各分野計画の整合性、広域連合が果たす役割についても、関係部署すべてを回ればよいこと。
090	R5②	上村	その他	広域連合の課題	広域連合が目指すべき関西の将来像	広域連合の目的	広域連合は設立当時と目的が違ってきている。最初の勢いからトーンが変わってきているわけだから、次に何を指すのか、ぜひ広域連合委員が集まって、もう一度話し合うべき。
091	R5②	上村	その他	広域連合の課題	広域連合が目指すべき関西の将来像	広域連合の役割、次なる目標、位置づけ	広域連合と、都道府県・国全体でやることの違いがはっきりせず、ダブっている。次なる目標と位置づけが決まらないと、恐らく総花的で今までの延長になってしまう。
092	R6①	河田	その他	計画全般	住民等への情報発信	住民への情報発信、ワークショップ	関西広域連合の動きや取組を構成府県市の県民市民に広く知ってもらわなければならない。NYではワークショップやコンペなど、住民の意見を聴くことがベースにあり、時代とともに計画を変えていくというスタイルをとっている。
093	R6①	山崎	その他	計画全般	住民意見の反映	計画策定プロセスにおける住民参加	広域連合は範囲が広いので、住民の意見は聴かないで進めるということも一つの方法。その場合には、関西広域連合に参加している府県市が政策立案するときに、どのような住民参加を進めていくのかという指針を示す計画内容にすべき。
085	R6①	山崎	その他	計画全般	住民意見の反映	計画策定プロセスにおける住民参加、デジタル技術活用	デジタルの力を使って住民が学び合い、つながり合い、関西の将来について意見を出し合って、対話の中で計画をつくっていくプロセスは21世紀的、クリエイティブなつくり方になる。
086	R6①	加渡	その他	計画全般	住民意見の反映	巨大なワークショップ	次の広域計画を策定するときに様々な世代や生活環境の方が参加する巨大なワークショップを実施することは、地理的な条件を越えるというデジタルの真骨頂ではないか。
087	R6①	新川	その他	計画全般	住民意見の反映	計画策定プロセス、ICTを活用した住民参加、関西らしい未来	これまでの計画に対する評価をベースに、どのような手順で、住民参加をどのように組み込むか。オープンな議論、DX、ICTを活用した市民参加の新しいやり方も含め、できるだけ多くの府県民、市民の意見を聴きながら策定する方法はないか、トライしてみるべき。総花的にならざるを得ない中でも、関西らしい未来を開いていけるような計画づくり。
094	R5②	渥美	その他	計画全般	行政評価	評価、オンライン活用	「施策運営目標の中間評価」で、セミナー等の開催に関する項目の参加人数の目標や実績が数百人になっているが、少な過ぎる。例えば、YouTubeチャンネルで限定公開にするなど工夫すれば、数百人という目標ではなくはなるはず。
088	R6①	大浦	その他	計画全般	行政評価	評価検証やグッドプラクティス等の共有	評価検証や各府県市のグッドプラクティスや課題の共有も重要ではないか。万博期間中に関西パビリオンで何かイベントをするといった余地があるのではないか。
089	R5①	木村	その他	計画全般	計画推進その他	地域開発	どの地域のインフラを重視して整備・発展させていくかについては、広域連合の構成自治体間の利益が相反する場合は書きにくいということもあり、地域開発の議論は避けてきたと思うが、それを打破する一つの方法として、厚生白書のように、例えば委員がコラムのような形で割合刺激的なことを書いてもよいのではないか。
095	R5②	坂上	その他	計画全般	計画推進その他	計画の構造の複雑さ、将来像の実現プロセス、評価	現広域計画には「将来像が実現した姿」とこれに絡んで「重点方針」が書かれているが、KPIとリンクしていないので、計画そのものが非常に複雑な構造になっていて読みにくい。将来像がたくさん書かれているが、実現化のプロセスが全くイメージできない。施策運営目標の中間評価に、未実施項目が非常にたくさんあるので、表現をもっと工夫するべき。対外的な評価をそのまま出すと、関西はあまり企業立地とか創造的環境にない印象になり、プラスにならない。
096	R6①	坂上	その他	計画全般	計画推進その他	詳細編・重点骨格編	次期広域計画では、総花的な計画からの改革として、詳細編と重点骨格編のような二部構成でつくってはどうか。
097	R6①	坂上	その他	計画全般	計画推進その他	次期広域計画への反映	これまでの委員会における各委員の意見について、次期広域計画にどのように反映するのかという対応表をつくってもらいたい。